

千代田保健所における乳幼児歯科健診 の実態調査

第一報 昭和51年から30年間の変遷

(ポスター発表)

- 山田和子 (DDS) 千代田区歯科医師会
大井照・寺田勇人 (MD)
原田幸子・鈴木純子 (RDH) 千代田保健所

日本小児歯科学会 関東地方会
第21回大会および平成18年度総会

平成18年10月22日
会場 鶴見大学記念館

緒言

千代田区は千代田保健所と麴町庁舎の2カ所で乳幼児の歯科健診を行っており、主に神田地区管内対象者が来所する千代田保健所（旧神田保健所）では、昭和51年3月に、乳幼児期の歯科保健対策として、歯科衛生の推進を図り区民の健康推進に寄与することを目的に、歯科衛生相談室が開設された。平成12年国勢調査では千代田区の昼間人口は85万人で、夜間人口の23.6倍という特殊性から、定住人口の減少と少子化が課題となっている。今回は昭和51年から平成17年までの30年間の乳幼児を取り巻く環境として、地域人口、出生状況の変動と、歯科健診の流れ、1歳6ヶ月児・3歳児・5歳児歯科健診結果の変化をまとめて報告する。

対象と歯科健診方法

千代田保健所に来所した1歳6ヶ月児（昭和52年～平成17年度）3,465名、3歳児（昭和51年～平成17年度）4,271名、5歳児（昭和57年～平成9年度）1,765名を対象とした。

健診は原則として一人の決まった歯科医師が行い、対象数が少ないことから、必ず個別に歯科衛生士が歯科保健指導（口腔清掃・食事・生活指導等）を行い、その後十分なライトの下で仰臥位の乳幼児を歯科用ユニット又は膝の上にて健診し、希望により予防処置を行っている。

1. 歯科衛生相談乳幼児定期健診とフッ化物塗布について

3～4ヶ月健診（平成5年～15年実施）

ピーパー教室（生後10ヶ月～12ヶ月）

歯科相談 最初の案内（1歳1ヶ月）

↓
歯科相談（3ヶ月間隔・フッ化物塗布は6ヶ月間隔）

1歳6ヶ月児歯科健診

↓
歯科相談（3ヶ月間隔・フッ化物塗布は6ヶ月間隔）

3歳児歯科健診

↓
歯科相談（3ヶ月間隔・フッ化物塗布は6ヶ月間隔）

フッ化物塗布終了者は3ヶ月毎に歯科健診をし、必要に応じ予防処置

↓
5歳児歯科健診（昭和57年10月～平成9年実施）

↓
歯科相談（歯科健診・必要に応じ予防処置）

〔フッ化物塗布について〕

健全歯

- ・3歳児までは6ヶ月に1回、3歳以上は3ヶ月に1回とする。
- ・同一歯牙に4回塗布する。

COがある場合

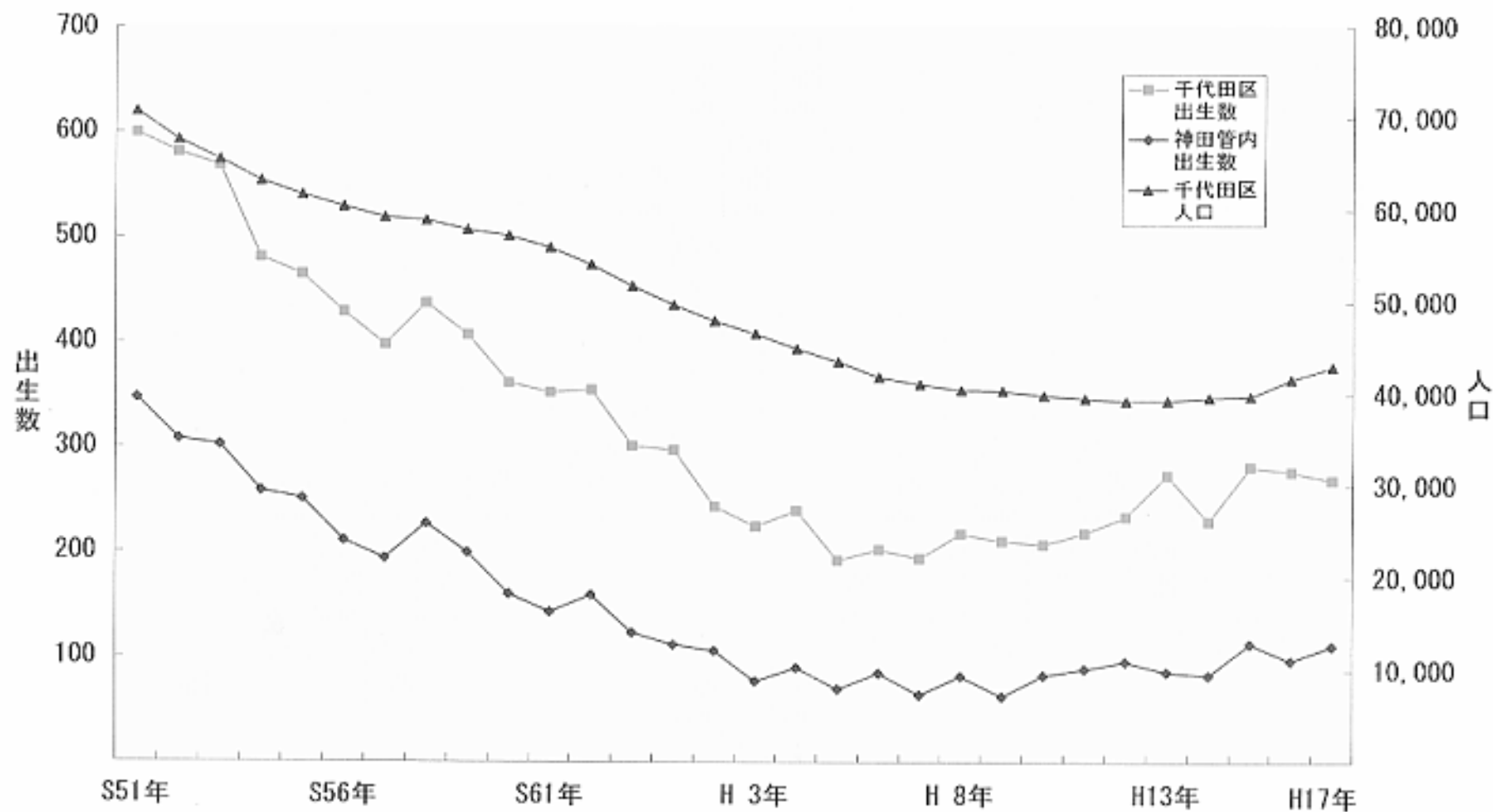
- ・3ヶ月毎の塗布。

COの状態により、回数は原則によらず、歯科医師と相談の上、決定する。

〔その他の予防処置について〕

フッ化ジアミン銀塗布・歯石除去・着色除去については、必要に応じ、保護者と相談の上実施する。

2. 千代田区の人口と出生数の推移



	千代田区 人口	神田管内 人口	千代田区 出生数	神田管内 出生数
S51年	70,851	41,297	599	347
S52年	67,706	39,695	581	308
S53年	65,603	37,884	568	302
S54年	63,288	36,048	481	258
S55年	61,788	34,786	465	251
S56年	60,500	33,670	429	211
S57年	59,361	32,807	398	194
S58年	59,006	32,133	437	227
S59年	57,936	31,241	407	199
S60年	57,299	30,241	361	160
S61年	55,988	29,234	352	143
S62年	54,164	27,979	354	159
S63年	51,784	26,512	301	123
S64年	49,738	25,363	297	112
H 2年	48,031	24,289	243	106
H 3年	46,602	23,291	224	77
H 4年	44,956	22,215	239	90
H 5年	43,551	21,590	192	70
H 6年	41,900	20,893	202	85
H 7年	41,118	20,311	194	64
H 8年	40,470	19,560	217	82
H 9年	40,411	19,105	210	63
H10年	39,910	18,807	207	83
H11年	39,567	18,560	218	89
H12年	39,297	18,191	233	96
H13年	39,340	17,866	273	86
H14年	39,684	17,820	229	83
H15年	39,784	17,775	281	113
H16年	41,676	18,442	276	97
H17年	42,968	19,417	268	111

(参考) 23区人口比較

千代田	43,933
中央	99,078
港	176,781
新宿	275,771
文京	180,667
台東	160,171
墨田	226,372
江東	415,866
品川	334,470
目黒	247,989
太田	660,161
世田谷	810,983
渋谷	196,029
中野	297,626
杉並	516,705
豊島	236,657
北	316,693
荒川	177,547
板橋	508,240
練馬	674,123
足立	624,365
葛飾	426,897
江戸川	640,686
計	8,247,810

平成18年1月1日

合計特殊出生率の推移

	全国	東京都	千代田区
H 7年	1.42	1.11	0.80
H13年	1.33	1.00	0.81
H14年	1.32	1.02	0.77
H15年	1.29	1.00	0.88
H16年	1.29	1.01	0.82
H17年	1.25	0.98	0.76

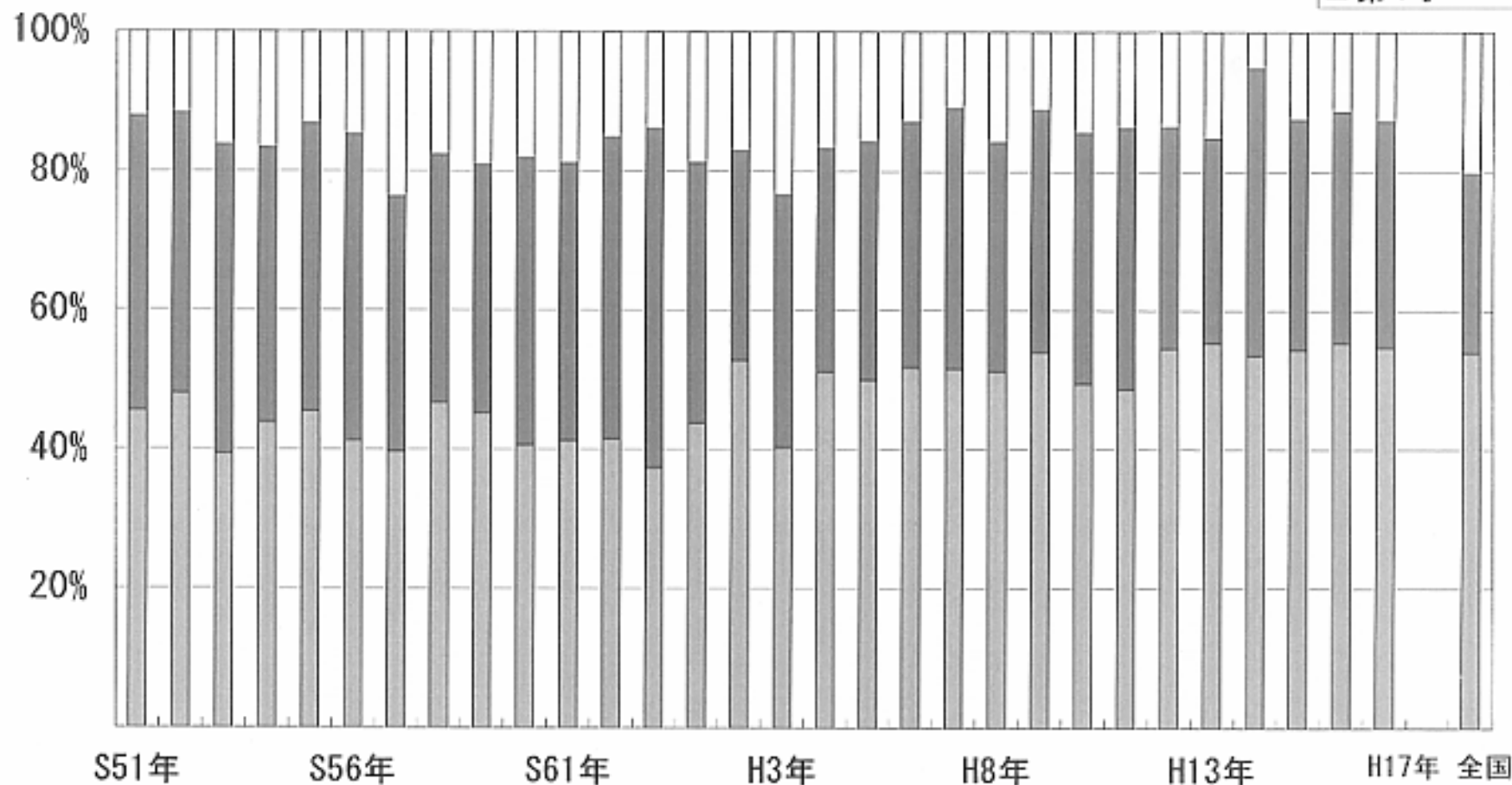
・千代田区全体の人口は30年の間に70,851人から42,968人と昭和51年当時の60%となり、うち、神田管内の減少はさらに大きく41,297人から19,417人と47%になった。しかし、平成13年からわずかながら増加に転じている。

・年間出生数は千代田区全体では平成17年は昭和51年当時の45%となったのに対し、神田管内は32%に減少し、神田管内での減少が大きい。また、合計特殊出生率は平成17年には0.76で東京都の0.98を下回っている。(全国1.25)

3. 出生時の状況

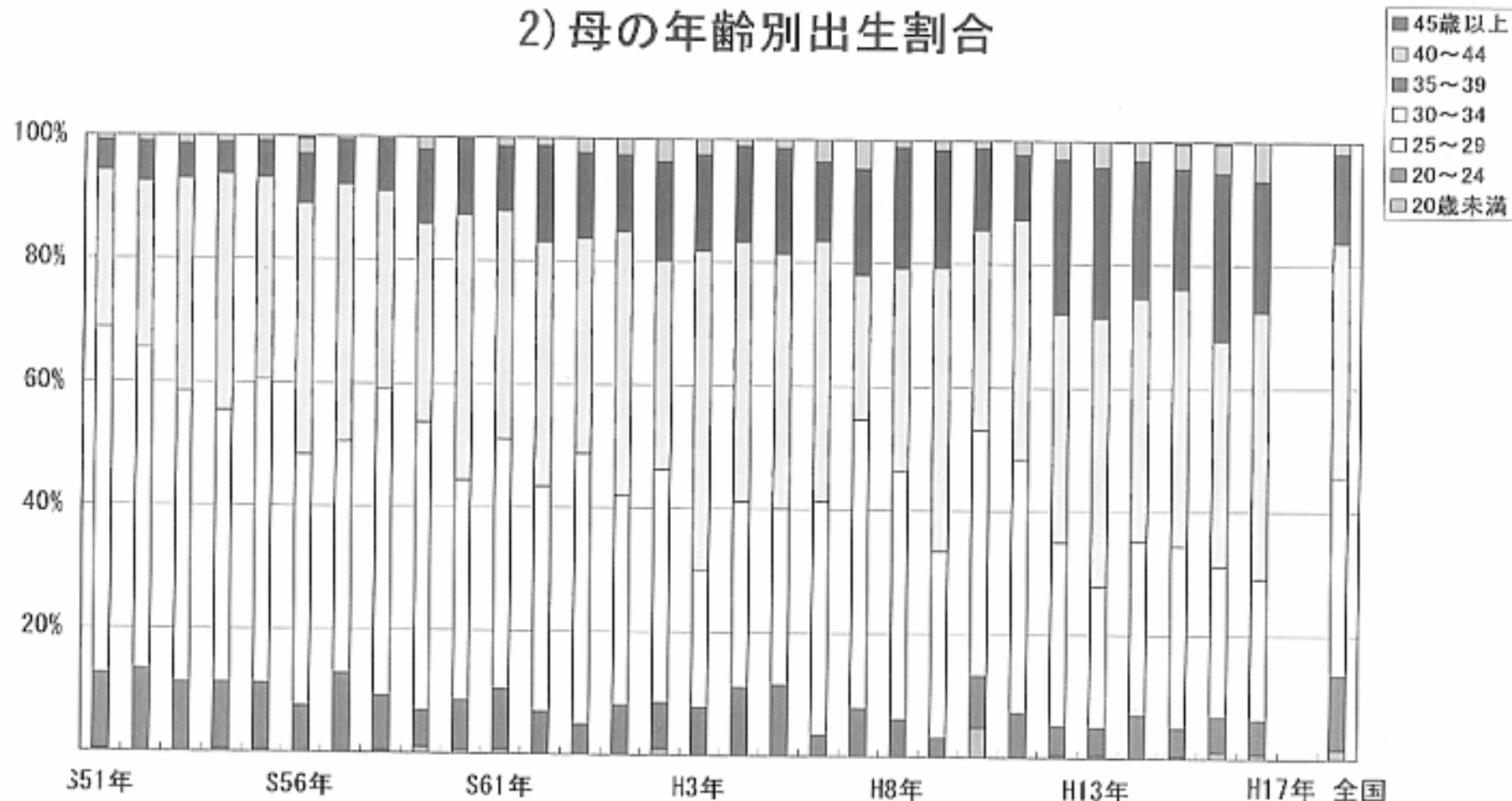
1) 出生順位別割合

- 第3子以上
- 第2子
- 第1子



第1子の割合が30年前と比べて、約9.2%増加し、第2子は逆に9.8%減少している。第3子以上の数はほとんど変化はないが、全国平均と比べるとその割合は低い。

2) 母の年齢別出生割合



母親の年齢は昭和51年では25~29歳が56.2%と一番多く、30歳未満が68.9%を占めている。平成17年には30~34歳が一番多くなり43.3%で、30歳未満は29.1%に減少し、全国平均と比べて高齢化している。

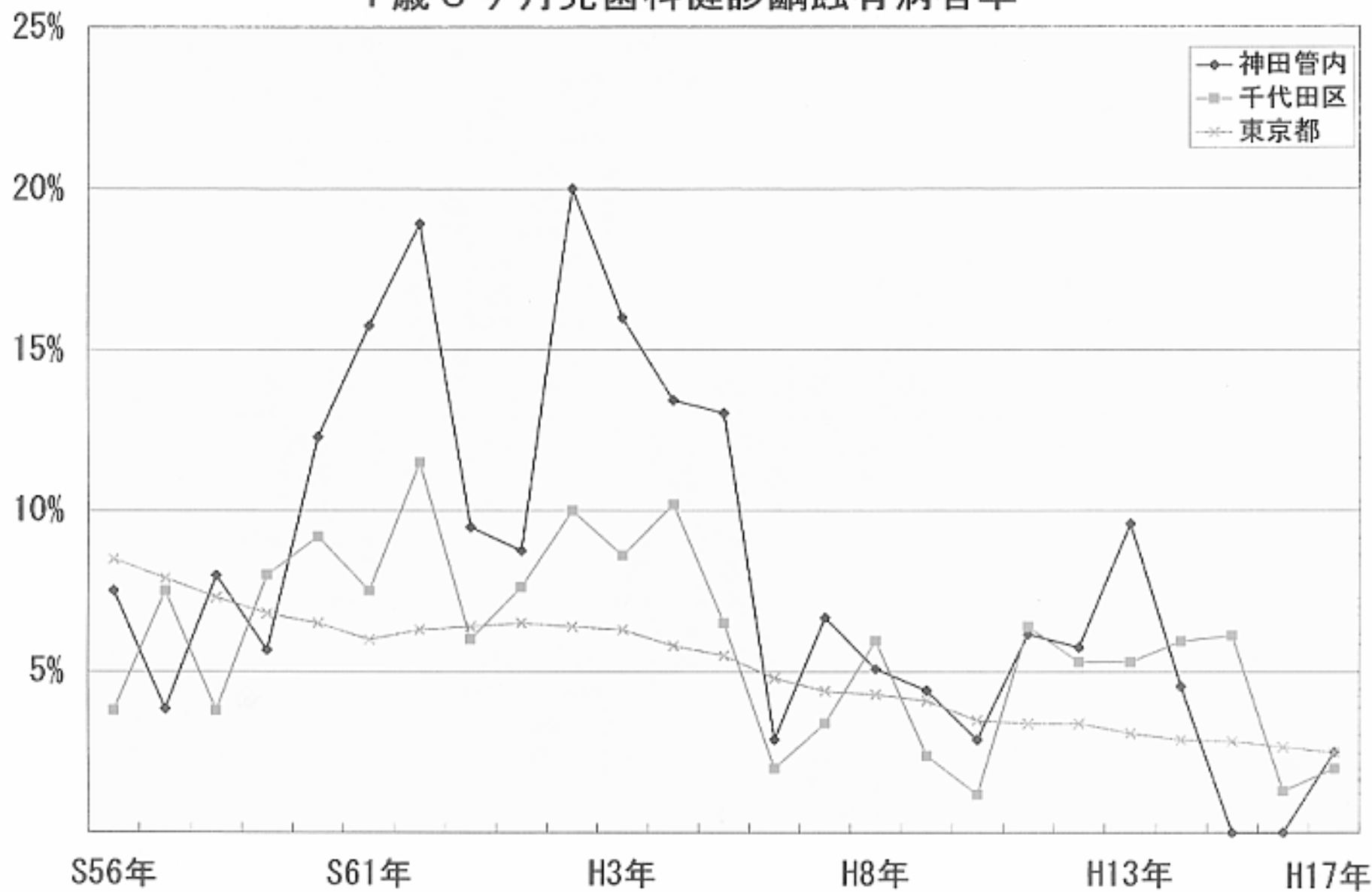
4. 1歳6ヶ月児歯科健診

	歯科受診者数	受診率	齲蝕のある者	齲蝕有病者率	一人平均齲蝕数
S52年	257	74.9%	30	11.67%	0.43
S53年	234	81.0%	23	9.83%	0.37
S54年	216	60.0%	19	8.80%	0.38
S55年	208	86.3%	7	3.37%	0.11
S56年	200	83.0%	15	7.50%	0.27
S57年	182	84.3%	7	3.85%	0.13
S58年	163	86.7%	13	7.98%	0.18
S59年	159	78.7%	9	5.66%	0.10
S60年	179	85.6%	22	12.29%	0.36
S61年	127	83.0%	20	15.75%	0.53
S62年	111	83.5%	21	18.92%	0.47
S63年	116	76.3%	11	9.48%	0.42
H 1年	80	68.4%	7	8.75%	0.28
H 2年	90	78.9%	18	20.00%	0.66
H 3年	75	75.0%	12	16.00%	0.48
H 4年	67	85.9%	9	13.43%	0.37
H 5年	57	70.4%	6	13.04%	0.50
H 6年	69	92.0%	2	2.90%	0.13
H 7年	60	73.2%	4	6.67%	0.25
H 8年	59	79.7%	3	5.08%	0.19
H 9年	68	86.1%	3	4.41%	0.10
H10年	69	88.5%	2	2.90%	0.04
H11年	65	97.0%	4	6.15%	0.18
H12年	87	85.3%	5	5.75%	0.17
H13年	73	75.3%	7	9.59%	0.25
H14年	88	100.0%	4	4.55%	0.18
H15年	78	88.6%	0	0.00%	0.00
H16年	109	95.6%	0	0.00%	0.00
H17年	119	97.5%	3	2.52%	0.07

昭和52年度には受診者数も多く、齲蝕有病者率は11.67%であったが、平成6年度から顕著に減少し、平成17年度には2.52%になった。平成15年度、16年度は齲蝕のある者は0人であった。

受診率の平均は82.8%であった。

1歳6ヶ月児歯科健診齲蝕有病者率



5. 3歳児歯科健診

	歯科受診者数	受診率	齲蝕のある者	齲蝕有病者率	一人平均齲蝕数
S51年	352	82.4%	251	71.31%	
S52年	302	86.0%	204	67.55%	
S53年	268	85.6%	151	56.34%	
S54年	284	71.9%	176	61.97%	
S55年	268	78.6%	141	52.61%	
S56年	245	90.7%	139	56.73%	3.07
S57年	209	90.1%	126	60.29%	3.41
S58年	190	88.8%	141	74.21%	6.02
S59年	131	84.5%	98	74.81%	3.74
S60年	169	80.5%	117	69.23%	3.68
S61年	150	83.8%	90	60.00%	2.60
S62年	168	82.8%	107	63.69%	3.83
S63年	125	86.8%	82	65.60%	3.27
H 1年	117	83.6%	68	58.12%	3.27
H 2年	126	94.0%	80	63.49%	3.90
H 3年	104	91.2%	54	51.92%	3.13
H 4年	86	85.1%	45	52.33%	2.33
H 5年	67	87.0%	31	46.27%	2.79
H 6年	64	77.1%	30	46.88%	2.39
H 7年	80	97.6%	30	37.50%	2.15
H 8年	58	86.6%	15	25.86%	1.16
H 9年	67	79.8%	17	25.37%	1.10
H10年	70	92.1%	15	21.43%	0.91
H11年	79	84.9%	20	25.32%	0.84
H12年	75	100.0%	11	14.67%	0.59
H13年	78	91.8%	16	20.51%	0.62
H14年	95	92.2%	21	22.11%	0.93
H15年	88	81.5%	11	12.50%	0.33
H16年	76	78.4%	8	10.53%	0.28
H17年	80	85.1%	8	10.00%	0.38

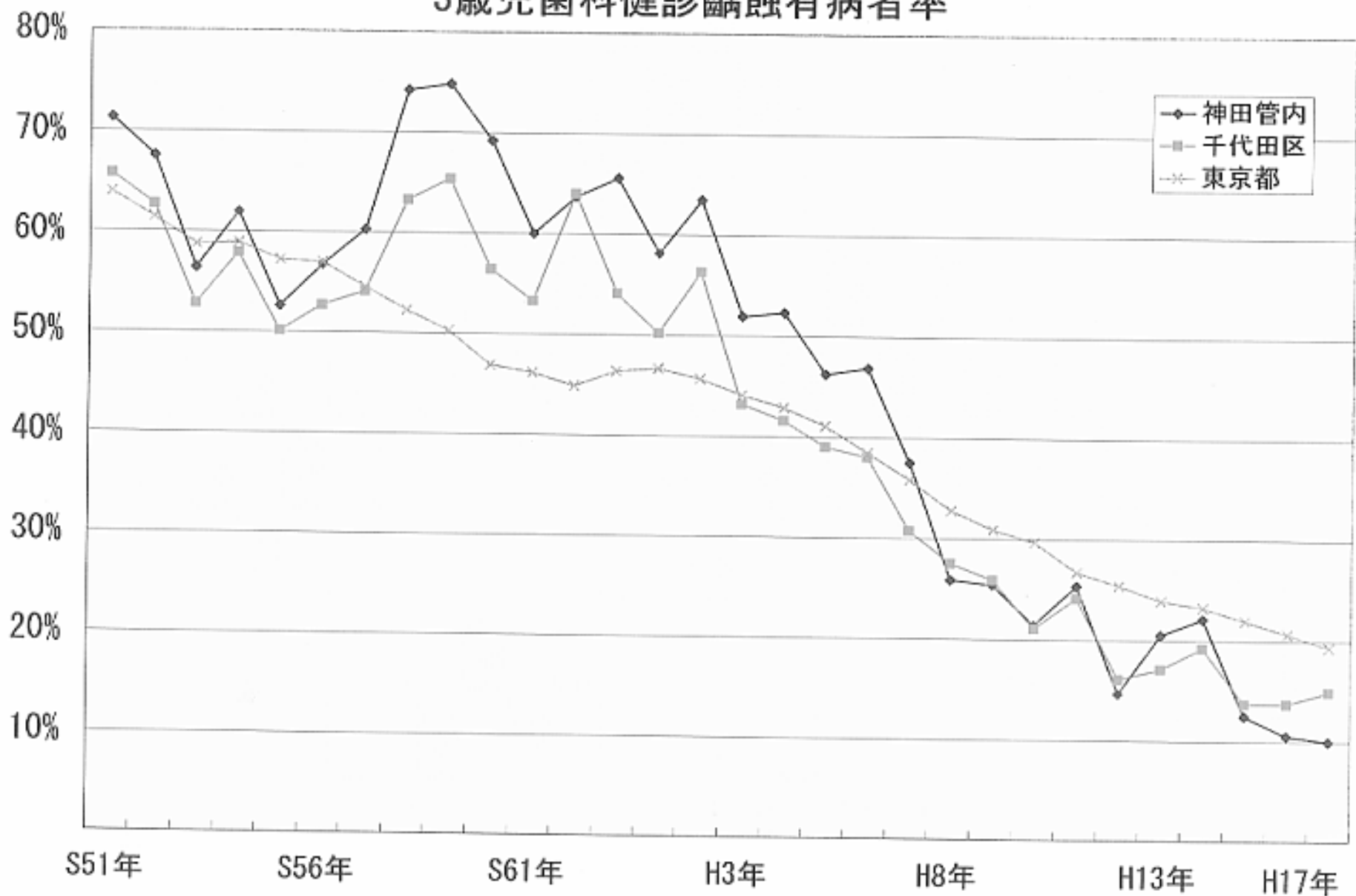
齲蝕有病者率は昭和51年度は71.31%であったが、平成3年度には50%台となり、平成8年度から顕著に減少し、平成17年度には10.00%となった。

受診者数も減少傾向をたどり、平成4年度には100人を切った。

一人平均齲蝕数は昭和56年度には3.07本であったが、平成10年度には1本を下回り、平成17年度は0.38本となった。

受診率の平均は86.0%であった。

3歳児歯科健診齲蝕有病者率



6. 5歳児歯科健診

	歯科受診者数	受診率	齲蝕のある者	齲蝕有病者率	一人平均齲蝕数
*S57	81	58.3%	76	93.83%	9.02
S58	149	55.6%	139	93.29%	8.37
S59年	162	66.4%	147	90.74%	7.34
S60年	179	78.2%	164	91.62%	7.69
S61年	149	81.0%	140	93.96%	7.19
S62年	147	80.8%	130	88.44%	6.45
S63年	158	83.6%	138	87.34%	6.99
H 1年	149	78.0%	118	79.19%	5.84
H 2年	98	74.2%	85	86.73%	6.11
H 3年	95	76.6%	75	78.95%	5.46
H 4年	92	63.0%	77	83.70%	5.96
H 5年	79	69.3%	56	75.68%	6.15
H 6年	63	64.3%	45	73.77%	5.77
H 7年	48	65.8%	36	75.00%	4.44
H 8年	54	72.0%	33	61.11%	4.15
H 9年	62	68.9%	36	58.06%	3.51
**H17年	22		8	36.36%	0.91

*S57は10月から開始

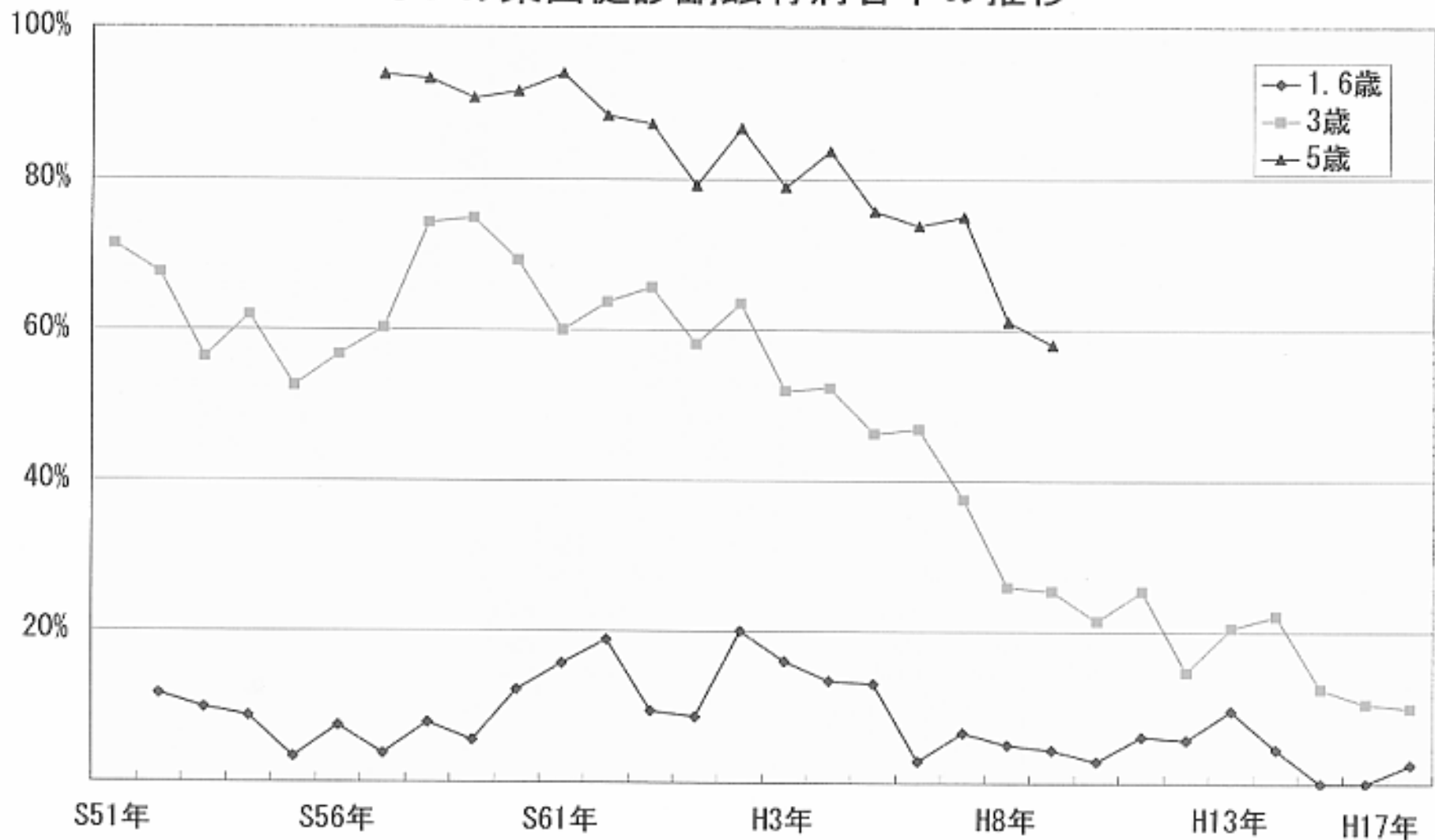
参考 **H17はH17.1～H17.12に歯科相談に来所した5歳児

従来、乳幼児健康診査では、乳児期（3～4ヶ月児、6ヶ月児、9ヶ月児）、幼児期（1歳6ヶ月児、3歳児）の健康診査を行っているが、3歳児以降、小学校入学までの3年間の健康診査がないため、その間の心身の発達状況を総合的に把握し、適正な指導及び措置を行うことにより、健全な育成を記するために実施した。この健康診査の特色は、診査項目に視聴覚検査を重点として、眼科及び耳鼻科健診を加えたことである。

昭和57年度は齲蝕有病者率が93.83%であったが、平成9年度には58.06%となった。一人平均齲蝕数は16年間で9.02本から3.51本へと減少した。

受診率は平均71.0%で、1歳6ヶ月児・3歳児健診と比べると低い。

3つの集団健診齲蝕有病者率の推移



まとめ

1. 千代田区の人口は30年間で60%に減少し、さらに出生数は減少して、45%となった。とくに、神田管内では出生数は32%と30年前の約1/3に減っている。
2. 出生順位は第1子の割合が約10%増加し、第2子は逆に10%減少している。平成17年の全国平均と比べると、第1子はほとんど変わらないが、第3子以上の割合は少ない。
3. 母親の年齢別出生割合は昭和51年では30歳未満が68.9%を占めていたが、30年後の平成17年は29.1%に減少し、逆に30歳以上が31.1%から70.9%に増加している。全国平均では30歳未満が45.6%、30歳以上が54.4%に比べて、より高齢化している。
4. 1歳6ヶ月児健診では昭和52年度に齲蝕有病者率が11.67%であったが、平成17年度には2.52%と著しく減り、齲蝕罹患者は3人、一人平均齲蝕歯数は0.07本であった。
5. 3歳児健診は昭和51年度には齲蝕有病者率71.31%であったが、平成17年度には、10.00%に減少し、一人平均齲蝕歯数も0.38本となった。
6. 5歳児健診は昭和57年度に齲蝕有病者率が93.83%であったが、平成9年度には58.06%となった。一人平均齲蝕歯数は16年間で9.02本から3.51本と減少した。
7. 千代田区はいずれの健診も、受診者が少ないことから、きめ細かい指導・健診ができ、受診率は平均して、1歳6ヶ月児が82.8%、3歳児が86.0%、5歳児が71.0%であった。

文京区

台東区

新宿区

飯田橋駅

水道橋駅

御茶ノ水駅

秋葉原駅

神田地区

神田駅

市ヶ谷駅

麹町地区

皇居

四ッ谷駅

東京駅

有楽町駅

港区

中央区

